

(一財)長崎県剣道連盟

広報誌 第35号

# 剣道だより (KENDO Nagasaki)



## 『いくたびも雪の深さを尋ねけり』…正岡子規 (小雪)

正岡子規の小雪を詠んだ俳句です。「雪がどれくらい積もったのか？」と何度も家族に尋ねている自分の状況を詠った句です。1896年(明治29年)冬、正岡子規は当時の医学では不治の病であった脊椎カリエスを患い、歩行が困難な状況になってしまいます。東京に住んでいたため雪が積もることは珍しく、好奇心あふれる性格だったと言われる正岡子規が抱いた、歩いて見に行けない悲しさやもどかしさが伝わってきます。



写真:シクラメン  
花言葉:「清純」

「小雪」は二十四節気のひとつで、わずかな雪が降る頃という意味です。山などに雪がみられる時期となりますが、それほど雪は多くないことから小雪と呼ばれるようになりました。2023年の小雪は11月22日です。また、小雪から大雪までの約15日間を言います。なお、二十四節気では、小雪の前は冬の兆しがみえてくる頃の「立冬」で、小雪の次は、山の峰に雪がかぶり平地でも雪が降りだす頃の「大雪」となります。日々寒さが増すなかで、本格的な冬に向け準備を始める時期です。剣道、杖道、居合道の稽古を通して、冬の寒さに負けない体づくりをしておきたいものです。

## 報告(1)…令和5年度日本剣道形講習会報告

令和5年10月15日(日)諫早市森山スポーツ交流館において標記講習会が実施され、受審者全員は真剣眼差しで取り組みました。また、講師の平井節朗先生(剣道教士七段)より日本剣道形における留意点や主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドラインを踏まえた審査等の留意点の講話と実技指導があり、受講者にとって有意義な講習会でした。

講師:平井節朗先生、(補助)山本昌克先生 参加者:講師 2名 受講生 56名 役員・事務局 7名 合計65名



講師 平井節朗先生と補助講師 山本昌克先生による講話

小太刀 1本目の実技指導

日本剣道形の実技演習

## 報告(2)…令和5年度授業協力者養成講習会報告

令和5年10月14日(土)長崎県立武道館において標記講習会が実施されました。講師の古川俊樹先生(剣道教士七段)による伝達講習および平井節朗先生(剣道教士七段)による中学校部活動及び新たな地域クラブの動向とその対応について、宇治原辰彦先生(剣道教士七段)による感染拡大予防ガイドラインを踏まえた実技指導法について指導があり、受講者にとって有意義な講習会でした。

講師:宇治原辰彦先生・古川俊樹先生 コーディネーター:平井節朗先生・中元史郎先生

参加者:講師2名 コーディネーター2名 受講生11名役員・事務局 2名 合計17名



木刀による基本稽古法の指導

木刀による基本稽古法の実技

宇治原辰彦先生による実技指導法

# 報告(3)・・武道を通しての国際貢献に思う・・・・・ JICA 海外協力隊剣道指導

佐世保剣道協会 朝永将弘

—— 南米エクアドルからの便り(Facebook 投稿を抜粋・編集) ——

令和 5 年 10 月 26 日(出国日)から令和 6 年 2 月 26 日(帰国日)の 4 ヶ月間、JICA 海外協力隊(シニア短期)として 2023 年 10 月 27 日午後 1 時頃(現地時間)にエクアドルに到着し、早 2 週間が経とうとしています。

私は平成 20 年度第 4 次隊としてエクアドルに派遣され、2010 年(平成 20 年)3 月から 2012 年(平成 22 年)3 月まで JICA 海外協力隊剣道コーチとして剣道指導に従事しました。

今回、到着早々に活動開始ということで、在エクアドル日本大使館杯剣道大会が開催され、審判員及びコーディネーター(係員や他審判員の指導など)として活動してきました。

月曜日から土曜日は、各道場の普段の稽古や現地指導者及び中級段位者のための稽古会などに参加しました。到着後しばらく体調が優れなかったこともあり、現地の剣道愛好者との稽古は避け、指導者の指導法や門下生のレベルの把握・洗い出しに専念。

2 週目は、1 週目で私が感じたことや事実をもとに考察し、各道場の環境や指導者・門下生のレベルを考慮した指導法・稽古法を提案して実際に実践してもらっています。

エクアドルのみならずですが、海外の体育館は日本の体育館と作りが違うので床が硬く、空間が狭いなどの問題があり、十分且つ日本と同じような稽古を実践できないことがよくあります。

この問題については簡単に解決できないので、稽古法を工夫するしかないのですが、これが一番悩ましく難しい現状です。

そう考えると日本はどんなスポーツ・武道であれ、練習・稽古をするにも十分な環境が整っていて、きめ細やかなサービスがあって、まさに「贅沢の極み」だとつくづく思います。

今のエクアドルの剣道愛好者(基本稽古組や初級者)の皆さんに頑張っていたきたいのが「足捌き」の稽古量を増やすこと。これは環境的になかなか難しい道場もあるのですが、工夫に工夫を重ねてより良い稽古法・指導法を構築していかないといけないと思っています。

中級者(ここでは三段以上の有段者とする)においては、攻め(先の掛け方)についての考え方や体現をしっかりと養ってもらえるように努めたいと思っています。

私自身が七段合格に至るまでにお世話になった先生方から指導させていただいたのが、「業前」を磨き上げることでした。現地の方々にこの「業前」について丁寧に説明しているところですが、これを理解できて実際にできるようになれば、(まずは競技的な感覚として)より剣道の深みが増して、向上心も上がるのではないかと考えています。このことは「一朝一夕」でできるものではないですが、一人一人が共通目標・共通認識を持って頑張ってくれることを期待しています。

このような形で JICA 海外協力隊剣道コーチとして剣道指導が始まったばかりですが、中南米剣道大会まで 1 ヶ月を切っていますので、時間もなく、悠長なことはできませんが、付け焼き刃の技術にするつもりも突貫工事的に進めるつもりもさらさら考えていません。じっくりひとりひとりの癖や思考を観察し、最適な稽古法を提案するとともに、現地指導者においては、自ら手本を実践して行う指導法をよりレベルアップするために努めていきたいと思っています。



朝永将弘(佐世保剣道協会)  
(ともながまさひろ)  
1981 年生まれ (42 歳)  
剣道錬士七段、居合道三段  
国際武道大学武道学科卒業  
朝永エンジニアリング 勤務



JICA 海外協力隊での剣道指導



令和 4 年度県下剣道祭での紅白試合



エクアドル 南米の地図



エクアドル 稽古後での集合写真



在エクアドル日本大使館杯剣道大会  
エキビジョン 居合道演武



在エクアドル日本大使館杯剣道大会  
エキビジョン 日本剣道形